



中学生、高校生時代に書かれたエッセイ集。
自ら和綴りで製本。みうらじゅん事務所提供

中三で
エッセイストデビュー

——（取材時、みうらさんはデスクで執筆中）ちょうど書いているのはエッセイですか？

みうらじゅん（以下、みうら） これは「週刊文春」に一〇年以上も連載している「人生エロエロ」。

当初、編集部から「エロで」とお願いされて始まったもの。だから、僕はエッセイじゃなく「エロッセイ」と呼んでいます（笑）。

——（笑）みうらさんの肩書き「イラストレーターなど」の「など」には、エッセイストや小説家、ミュージシャン：なども含まれていると思います。エッセイストと呼ばれることはどう受けとめているのでしょうか？

みうら 中学生の頃のマイブームとしてエッセイストがあったもんで、とてもうれしいです。

エッセイストデビューは中学3年。エッセイストとしてのキャリアは50年を超える。撮影＝五十嵐和博

超エッセイ論 エッセイはもうひとりの自分が書く

みうらじゅん（イラストレーターなど）

絵も描けば、文章も書き、作詞、作曲にギターも弾く……。
みうらじゅんという存在の何分の一かはエッセイストでできているはずだ。
どのようなエッセイ観のもとに文章はつむがれるのか？
エッセイストみうらじゅんを形づくっているものは何なのか？
話を聞けば聞くほど、凡百のエッセイでは体現も例示もできない
「ハミ出した」エッセイ論が浮かび上がった。

——当時の読者は？

みうら 読者は、大好きだった藤井先生（笑）。読んでもらいたくて原稿用紙を和綴じして。

中・高と同じ男子校でしたので、先生だけを読者とした和綴じ本は三〇冊以上にもなっていました。

——テーマはどういうものだったのですか？

みうら 小説も何本か書きましたけど基本はエッセイ。

日常の出来事がテーマなんです。が、僕は優等生でもなかったし、不良の要素もほとんどなく、つまらないニュートラルな学生だったので、だんだんと書くテーマがなくなっちゃってね。でも自分で決めた締め切りは迫ってくるので（笑）。

そこで考え出したのがもうひとりの自分。平仮名の「みうらじゅん」というキャラを開発したんです。